

日経 SDGs フォーラム特別シンポジウム「プラスチック資源循環で目指すカーボンニュートラル」

「中間処理が担うプラスチック資源循環」

プラスチック資源循環の“元年” 中間処理の社会的存在意義を広く社会へ発信

株式会社木下フレンド（埼玉県所沢市、代表取締役社長 木下公次）は9月15日開催の日経 SDGs フォーラム特別シンポジウム「プラスチック資源循環で目指すカーボンニュートラル」に、株式会社首都圏環境美化センターと連携し「中間処理が担うプラスチック資源循環」と題して講演およびパネルディスカッションに参加しました。

当社は今年、創業50周年を迎えました。より社会へ中間処理についての理解を深めていただき資源循環を進めていくためステークホルダーの皆さまとの連携の強化を目指しています。

講演では中間処理についてわかりやすく解説するとともに、鉄道事業社と飲料メーカーにより再資源化ボトル to ボトルの実証実験、環境省が地方自治体、事業者による自動販売機のリサイクルボックスの異物削減への実証事業、またプラ新法施行に伴い対応について説明しています。さらに後半のパネルディスカッションではリサイクル促進のための課題を、発信しました。



日本経済新聞社と日経 BP は、国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs = Sustainable Development Goals）」の達成に向けた企業の取り組みを支援しています。同フォーラムは SDGs をテーマに日本経済新聞や日経グループの各種メディアと共に、パートナー企業・政府・地方公共団体・教育研究機関・民間団体とのネットワークづくりを促進し、日本の SDGs の推進エンジンとしての役割を果たしています。

●日経 SDGs フォーラム 特別シンポジウム「プラスチック資源循環で目指すカーボンニュートラル」

午前：リサイクルペットボトルでカーボンゼロ社会をリードする 午後：資源循環 広げるサーキュラーエコノミーの輪

●テーマ：中間処理が担うプラスチック資源循環（下記にてアーカイブ発信しております）



講演 <https://channel.nikkei.co.jp/202209plastic/15a10.html>

パネルディスカッション

<https://channel.nikkei.co.jp/202209plastic/15a11.html>



講演

(株)木下フレンド

執行取締役 諸橋勇一



パネルディスカッション

(株)木下フレンド

営業部次長

西慎太郎

(有)JF 原料

営業部 係長

大石菜



木下フレンドは、グループ会社とともに埼玉県所沢市と東京都大田区に中間処理の施設を構え、約4500事業所と契約し、運搬車両約200台を保有して、東京23区全域、多摩地域、埼玉県西部を中心に廃棄物の回収、輸送も行っております。

ご視聴いただき、ご感想などお聞かせください。よろしくお願いたします。04-2946-0111